

学校概要

創立 69 周年	学校長 生出 宏	副校長 山中 裕子	学期 3 学期制	児童・生徒数 890 人
学級数 一般級: 23 個別支援級: 3		主な関係校: 大綱小学校・太尾小学校・大豆戸小学校・菊名小学校		

学校教育目標

「共に学び、自他を大切に、たくましい、心豊かな人を育てます」
 ○将来にわたって学び続ける人を育てます。(知)
 ○自立心にあふれた心豊かな人を育てます。(徳)
 ○心身ともに健やかでたくましい人を育てます。(体)
 ○広く社会に貢献する人を育てます。(公)
 ○横浜を愛し、国際社会の発展に寄与する人を育てます。(開)

学校の特徴

- 学区には東急東横線大倉山駅およびそれに隣接した商店街や公共施設があり、学校に対して協力的である。
- 保護者・地域の教育力が充実しており、学校教育への関心も高い。生徒の学習意識、生活意識も高い。
- 本校の卒業生がPTAや町内会自治会のリーダーとして活躍しているため、歴史的にも学校と強い連携体制がある。
- 小中ブロックの連携が充実している。
- 生徒の積極的な挨拶がなかなか定着しない。

学校経営中期取組目標

- 指導力・授業力・組織力の向上により、魅力ある学校づくりを目指します。
- ・認め合い学び合う姿勢を育み、やりがいのある授業づくりを目指します。
- ・困難に立ち向かう姿勢と他者を思いやる姿勢を育み、いじめのない学校づくりを目指します。
- ・挨拶から始まるコミュニケーションを大切に、実生活や将来につながる生活態度を身に付けさせます。
- ・教職員集団としての協働性を尊重して、日常的教育活動を推進します。
- ・保護者や地域との連携を大切にして、地域に貢献しようとする姿勢を育みます。

小中一貫教育の取組

大綱中	ブロック	: 大綱中学校・大綱小学校・太尾小学校・大豆戸小学校・菊名小学校
9年間で育てる子ども像	○主体的に学習に取り組む子ども～学び合う～ ○あいさつができ、友だちや地域との関わりを大切に子ども～関わり合う～ ○自分の良さを活かしながら夢や希望に向かってチャレンジする子ども～未来を創る～	
自校の具体的取組	・各教科において、身に付けさせる力の設定とその共通理解を図るための合同授業研究会を実施します。 ・目指す子ども像について、継続的な視点と新たな視点を確認するための合同研修会を実施します。 ・定期の小中ブロック担当者会や人権担当者会の他に、随時の中学校職員による小学校参観を実施します。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	学校教育目標の「共に学び」のために、主体的・対話的で深い学びの意味を理解し、各教科でその実現を図る。	①新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、各教科で授業の中で意図的に互いに意見交換する時間を設定する。「各教科の見方・考え方を動かさせる」ための「問い」について研究し、実践を重ねる。 ②生徒による授業評価を分析し、さらに授業改善につなげる。
豊かな心	人の話に耳を傾け、自他の存在を認めて大切に、いじめのない豊かな人間関係を育むことができる生徒を育てる。	①生徒会活動の「いじめ防止プロジェクト」の推進を継続し、生徒自身の当事者としての自覚を高め、いじめを許さない学校風土の確立に専心する。 ②体育祭や合唱コンクールなどの行事や道徳、日々の学習、部活動を通して、自己肯定感を育てるとともに相手の存在を大切にすることを育てる。
健やかな体	心身のバランスのとれた成長を促すために、健康の維持増進に関する啓発活動を推進する。	①健康に関する学習を広める方法として、外部専門家→学校保健委員会→代表生徒→一般生徒という流れを継続する。 ②運動部の怪我やスポーツ障害に加えて、体育実技の授業における怪我の発生を予防するために新聞などの啓発活動を充実させる。③昼休みの外遊びを継続して推奨する。
生徒指導	チームとしての意識を高め、情報の収集・共有・共通認識・相互理解のさらなる改善を目指す。	①年間3回設定されている教育相談週間を継続し、外部機関との連携をとりながら着実に課題の解決をはかっていく。 ②自己決定と参加・役割・責任を持たせる様々な教育活動により、自分から学び、自分で自分を指導できるような自己学習力や自己指導力を育成していく。
特別支援教育	各学級担任や学年主任との連携、さらに関係諸機関との連携を積極的に行い、迅速で的確な対応をする。	①多様性を理解するために特別支援教育コーディネーターと学習指導部の連携を強化し、授業のユニバーサルデザイン化や合理的配慮を実施するための合意形成の成り立ちなどについて、教職員全体で正しく理解するための研修会を年3回以上実施する。 ②新たな課題に対して、スクールカウンセラーや関係諸機関との連携を見直し、強化する。
地域連携	保護者の願いや地域の伝統・文化などを大切ながら、各種地域行事に積極的に参加し、連携充実を図る。	①体育祭、合唱コンクールやオープンスクールの地域へのPR活動、部活動発表会への招待、地域のまつりや地域事業所と連携した教育活動、学校HP(大綱デイズ)による日々の教育活動の情報発信など、地域との双方向の協力体制を今後も深めていく。 ②保護者・地域との粘り強い連携により、いじめが起らない風土づくりを目指す。
いじめへの対応	生徒一人ひとりが受け入れられていると実感できる環境をつくる。また、生徒の心理や特性を見出すための生徒理解を深め、関係機関との支援体制を整える。	①「自他を大切に」の学校教育目標のもと、誰もが安心して教育活動に参加し、授業、学校行事などで自己肯定感高め、いじめを許さない学校風土の確立に専心する。 ②校長をリーダーに、定期的な「いじめ防止対策委員会」を開催し、実態把握、分析を行い、速やかに関係機関と連携をとりながら解決をはかる。
人材育成・組織運営	業務改善によるゆとりの時間を生み出し、実践の中で生まれる様々な課題について、安心して語り合える職員室の雰囲気醸成する。	①業務アシスタントを活用して改善を行い、子どもの指導に専念できる環境を整える。 ②一人ひとりの資質向上がチーム力の向上に繋がるよう、授業力、生徒指導力など実践力養成に役立つ校内研修を定期的の実施する。 ③道徳の教科化に向けて、校内での授業研究をすすめる。